

研究課題名	ICT を利用した医療機関での脳卒中急性期診療の包括的改善のためのスキーム開発のための多機関共同観察研究 【多施設共同研究】
研究期間	倫理委員会承認日 から 2024 年 3 月 31 日 まで
研究の概要・目的 ・背景・意義	<p>脳梗塞とは、何らかの原因で脳を流れる血液が不足し、脳細胞が障害される病気です。主な原因は動脈硬化や心房細動などの不整脈で、主な症状としては、麻痺、感覚障害、呂律の周りにくさなどが現れます。</p> <p>発症後間もない脳梗塞では、詰まった血管の先に、まだ完全に脳細胞が死滅していない領域が存在し、その部分の脳細胞を救うため、血管の再開通療法が行われる場合があります。Recombinant tissue plasminogen activator (rt-PA) 静注療法や血管内治療といったこれらの方法は、発症早期に行うほど効果が得られやすいと言われています。そのため、現在病院到着から治療開始までの時間を短縮するために、世界中で様々な工夫がなされています。その1つとして IT を使用して脳卒中急性期診療支援する Task Calc.Stroke3 (タスカル3) という IT システムが開発され、それを脳卒中診療に活用し、診療プロセスに与える影響と、その影響に関連する因子を明らかにして、脳卒中診療により有効なプログラムを開発することを目指しています。</p>
研究の対象	2020 年 10 月から 2023 年 12 月までの間、当院を受診し、急性期脳卒中に治療を受けた患者さん。
研究に用いる試料 ・情報の種類	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢、性別、身長、体重、既往歴、合併症</li> <li>・発症前後の身体状況、脳卒中病名、重症度、症候性出血の頻度</li> <li>・画像データ、血液データ</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
研究方法	電子カルテ上の診療データを収集し、検討する。
研究における 医学倫理的配慮	<p>本研究データからは、患者さん本人を直接特定できる情報（お名前など）を削除して匿名化しますので、患者さんを特定することはできません。</p> <p>また、この研究成果については、学会や学術雑誌などで発表する場合がありますが、その場合でも、上記のとおり匿名化しておりますので、患者さんのプライバシーは守られます。</p>
研究組織	藤田医科大学病院
研究責任者	脳卒中科 教授 松本 省二
問い合わせ先	電話 0562-93-9759
当院担当者 (当院情報管理者)	脳神経外科 主任部長 森谷 茂太